

# 麻 醉 科 学

【単位数：1単位，授業13コマ，予備3コマ(定期試験含まず)】

当該科目は医師としての臨床経験を持つ教員が担当する授業科目である。

## 1 科目責任者

野手英明 教授(特任)(麻醉科学)

## 2 教育目標

### (1) ねらい(Ⅲ-3-a, Ⅲ-4-a, Ⅲ-5-a)

- ① コンピテンスの“プロフェッショナリズム”を理解するため，周術期医療におけるチーム医療の一員として協働し，効果的な役割を果たすための知識，技能，態度を身につける。
- ② 手術・麻酔が生体に及ぼす影響とそれらに伴う有害事象の発生メカニズムを理解するとともに，有害事象の予防・治療にはチーム医療が不可欠であることを学修し，周術期チーム医療の一員として行動する準備ができる。

### (2) 学修目標

- ① 各種麻酔薬及び麻酔補助薬の薬理を説明できる。
- ② 各種麻酔法の作用機序・生体に及ぼす影響を説明できる。
- ③ 各種手術の生体に及ぼす影響とその管理法を説明できる。
- ④ 手術に伴う侵害刺激が生体に及ぼす影響を説明できる。
- ⑤ 各種併存疾患が周術期管理に及ぼす影響を説明できる。
- ⑥ 麻酔の合併症とその対策法を説明することができる。
- ⑦ 周術期管理に必要な生体制御を説明できる。
- ⑧ 周術期医療におけるチーム医療の必要性を説明できる。

## 3 成績の判定・評価

### (1) 総合成績の対象と算出法

	成績対象	割合	方法・コメント
定期試験	○	90%	多肢選択問題とする。
小テスト	○	10%	講義内容の理解確認のため，簡単な小テストを行う。(2回)
態度	○	—	態度不良の場合は，総合成績から10点を限度に減点をする。

出席： 定期試験を受験するためには欠席率が3分の1を超えてはならない。

### (2) 合格基準

評価対象の合計が60%以上(又は60点以上)で合格とする。

### (3) 再試験・再評価の方法

定期試験，小テストの合計が60%未満の場合は，再試験を実施する。再試験は定期試験に準ずる方法で実施する(60%以上で合格)。

### (4) 課題(試験やレポート)へのフィードバック

試験で正答率の低かった問題，理解が不十分と思われた問題については，解説を一斉メールする。

#### 4 教科書

書名	著者名	出版社	教科書として指定する理由
標準麻酔科学 第7版	監修 弓削孟文	医学書院	周術期医療に必要な基礎的事項が網羅されている。

#### 5 参考図書

書名	著者名	出版社	参考図書とする理由
麻酔科研修ノート	責任編集 稲田英一	診断と治療社	実地臨床に即した参考書
Miller's Anesthesia 第8版	R.D.Miller et al.	エルゼビア	麻酔科学のすべてを網羅している標準的教科書

#### 6 準備学習（予習・復習）

教科書標準麻酔科学の各講義に該当する項目（授業計画に掲示）を予習しておく。

1講義につき予習，復習合わせて1時間を充てる。

#### 7 授業計画

##### （1） 講義の方法

基本的に大教室での知識伝達型の講義を行う。

講義の資料は，事前にAIDLE-Kに掲載し，当日配付は行わない。

##### （2） 講義の内容

必修項目は講義で説明するが，講義のみでは麻酔科学の全範囲は網羅できない。

講義で説明できなかった部分は教科書に指定してある「標準麻酔科学」で各自自習しておくこと。